

第3回 『ディオバン錠』

ノバルティスファーマ 橋本 知周さん

参加者:川村先生、

小林、野口、松下、宮内、潮、岩堀、中谷、野田

高血圧は特有の自覚症状がほとんどなく、高血圧患者の大部分は原因が特定できない本態性高血圧である。
高血圧は放置しておくとう心筋梗塞や脳卒中、腎不全などの合併症を引き起こすおそれがあるため、長期的な血圧コントロールが大切である。

【効能・効果】

高血圧症

【用法用量】

通常、成人にはバルサルタンとして 40~80mg を1日1回経口投与する。

なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、1日 160mg まで増量できる。

【特徴】

- ・ディオバンはARBの中でもAT₁受容体への選択性がAT₂受容体に対して高く、降圧効果と臓器保護作用を発揮する。
- ・1日1回投与により投与2~4週で降圧効果の発現が得られ、24時間安定した血圧コントロールが可能である。
- ・10000例を超える日本人高血圧患者のエビデンスによりディオバンの降圧効果と心血管イベントの発症リスク低下が報告されている。
- ・副作用発現率の用量依存性は確認されていない。

【副作用】

市販後の使用成績調査において、主な自他覚症状は、めまい 0.8%、貧血 0.5%、頭痛 0.4%等であった。

また、主な臨床検査値異常は、血中尿酸値上昇 0.5%、 γ -GTP 上昇 0.5%、BUN 上昇 0.5%等であった。

【考察】

高血圧の薬物療法は長期にわたる場合が多いため、1日1回の服用で副作用も少ないディオバンはコンプライアンス維持の観点からも有用であると考えられる。高血圧治療の最終目的は正常血圧の達成だけでなく心血管疾患の予防であるため、ディオバンの優れた臓器保護作用は単剤だけでなく併用療法においても期待される。

しかし、日本人対象試験では追跡期間が短かったこともあり、長期治療において今後も検討が必要である。

【質問事項】

Q.血圧は時間や環境によって変動しやすいため、臨床試験時と実際の家庭での血圧の差はないのか。

A.明確なデータはないが、そのような差があることは考慮しなければならない。

Q.バルサルタン配合の合剤は？

A.コディオ配合錠 MD (バルサルタン 80mg + ヒドロクロロチアジド 6.25mg)

コディオ配合錠 EX (バルサルタン 80mg + ヒドロクロロチアジド 12.5mg)

エックスフォージ配合錠 (バルサルタン 80mg + アムロジピン 5mg)

Q.合剤のうち最も使用されているものは？

A.最初に発売されたプレミネントが多い。他は横這い状態。

多剤併用療法から合剤1剤へ変更になる場合、コンプライアンス上昇により降圧効果が強く現れることがあるため、適切な用量選択が重要となる。